



第87期事業報告書

平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日まで

株主の皆さまへ



株式会社 **マンドム**
証券コード 4917

マダムグループの企業理念

「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」

【経営の基本思想】

グループ企業理念の具現化へ向け、以下の基本思想を掲げ、わたしたちが考働する基軸とし、全社員が共有しながら、全ての生活者へお役立ちできる経営を推進してまいります。

1. 全員参画の経営

わたしたちは、自己の責任を認識しながら、時には会社、組織、役職の枠を超え、「知的なにぎわい」のある「場」を形成し、知恵を出し合い、協力することを考働の基軸とし、挑戦する高活力集団による経営を推進いたします。

2. 生活者発・生活者着

わたしたちは「健康」「清潔」「美しさ」「楽しさ」をビジネスキーワードとして、生活者発の「ウォンツ」を生活者着へ「価値」として提供することを考働の基軸とし、世界で1人でも多くの生活者に継続して価値を提供できる経営を推進いたします。

3. 「生活者理解力」「得意先理解力」

「商品理解力」「3理解力の向上」
わたしたちは、変化する生活者、得意先、商品(サービス)の動向、情報、知識、ウォンツに対して常にアンテナを張り巡らし、おのこの理解力を高めることを考働の基軸とし、商品やサービスの提案を通じて、問題解決やお役立ちできる経営を推進いたします。

目次

株主の皆さまへ	2
社長インタビュー	5
TOPICS	7
財務ハイライト[連結]	9
財務ハイライト[単体]	10
財務諸表[連結]	11
財務諸表[単体]	13
国内グループ会社	15
海外グループ会社および生産拠点	16
株式の状況	17
会社概要	18

株主の皆さまへ

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、創業以来「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」ことを企業理念とし、『全員参画の経営』、『生活者発・生活者着』、『「生活者理解力」「得意先理解力」「商品理解力」「3理解力の向上』を経営の基本方針に掲げています。また、品質理念、環境理念を掲げ、企業の安全性の向上を図り、商品サービスを通じて全てのステークホルダーへのお役立ちを図ることによって、企業価値の向上と社会的責任を果たしてまいります。



業績のご報告－7期連続で連結営業利益 過去最高を更新

第87期(平成16年3月期)の連結売上高は、前期より0.2%減少して453億64百万円となりました。海外売上高(アジア)は、各国でグループ・ブランド戦略が着実に浸透し、前期より9.9%増加しました。国内売上高は、厳しい経営環境のもと、コアブランド「ギャツビー」の男性用ヘアカラーがカラートレンドの変化に伴う使用頻度の低下により伸び悩みました。また、デオドラント(制汗剤)も冷夏の影響などにより振るわず、「ギャツビー」全体で2.6%減少しました。一方、連結営業利益は、前期より5.7%増加して66億80百万円となり、7期連続で最高益を

更新することができました。これは主に、日本における、中国への生産移管などによる原価低減、省力化の進展・増産による数量効果、インドネシアにおける為替安定による原材料の低減などにより、売上原価率は0.2ポイント低下して41.3%となり、また販管費抑制が寄与したことによるものです。連結当期純利益は、前期より8.9%増加して32億53百万円となりました。1株当たり当期純利益は、前期より2.0%増加して130.83円となり、いずれも最高益を更新しました。

また、利益処分に関しては、株主に対する利益還元を経営の重要政策として位置づけており、株主還元の基本政策として、キャッシュ・フローをもとにした配当金を中核としています。

具体的には営業キャッシュ・フローを株主配当、事業投資、内部留保に適正配分することを基本とし、当期純利益に対する配当性向40%以上、株主資本配当率(DOE)を3%以上の継続的実現を目標としております。当期の利益配当金については、予定通り25円、通期で50円とし、配当性向は42.1%、DOEは3.2%となります。

第7次中期経営計画 - 最終年度に向けて

当社グループの中期経営戦略は、男性化粧品ブランド「ギャツビー」、女性化粧品ブランド「ルシード エル」及び「ヘアカラー」品目といった3つの商品群に重点を置く。企業の

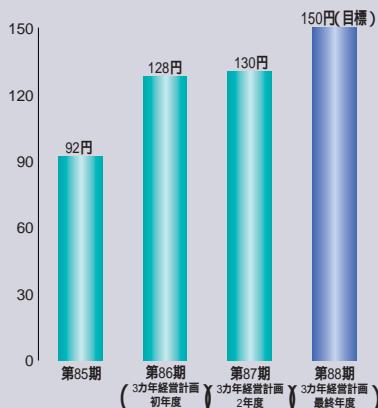
成長と規模拡大の中核をアジア市場に置き、海外事業のウェイトを高めることでグループ事業の拡大を図る。原価低減を継続してコストダウンを推進し、事業の拡大とともに収益性の向上を目指す。の3点です。これらの戦略によって、最終年度(88期)の目標数値である株主資本当期純利益率(ROE)を10%に、1株当たり当期純利益(EPS)を150円に向上させることを目指してまいります。

重点3商品群による成長の確保

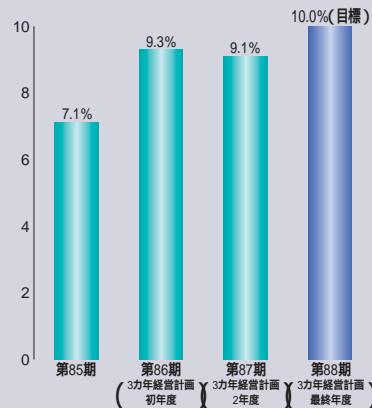
「ルシード エル」は、ヘアカラーが健闘し、順調に推移しましたが、コアブランドの「ギャツビー」が男性用ヘアカラー市

第7次中期経営計画の経営指標

EPS(1株当たり当期純利益)



ROE(株主資本当期純利益率)



(注)EPS=(当期純利益-利益処分による役員賞与金)/期中平均株式数

EPSは前期より上記により算定しておりますが、目標数値は従来方法による算定値(役員賞与金控除前の当期純利益)であります。

ROE=当期純利益/期首資本の部合計(新株式払込金を除く)+期末資本の部合計(新株式払込金を除く)/2

場の規模縮小と、国内における冷夏の影響によりシーズン商品が低迷し、目標達成できませんでした。来期におきましては、「ギャツビー」の販売戦略を見直すとともに、戦略カテゴリー「ヘアカラー」商品の充実化といった重点商品群の立直りを図り計画の達成を目指してまいります。

海外事業の強化・拡大による成長創出

海外事業は、「ギャツビー」の水平展開に伴う継続したマーケティング投資の効果により順調に伸長しております。特に連結ウェイトの高い子会社マンダムインドネシア(PT Mandom Indonesia Tbk)は、市場への積極的なマーケティング展開により大幅に伸長し、海外事業の拡大に寄与しました。来期におきましては、主力商品のグループ水平展開に加え、上海駐在員事務所のオープンを機に、中国市場における強化・拡大を図ってまいります。

更なる原価低減・コスト削減に向けて

当社グループ生産3拠点(日本・インドネシア・中国)の設備投資強化によって、グループ内製比率の向上を図り、グループ全体での原価低減・コスト削減を目指してまいります。また、現在取組んでいるSCM(サプライチェーンマネジメント)の一環として3PL(サードパーティーロジスティクス)をスタートさせ、原料調達から販売・返品処理に至るプロセスの全体最適化により業務の効率化を推進し、更なる収益性の向上を目指してまいります。

国内の化粧品市場は、数量こそ回復基調の見直しはあるものの、単価下落傾向は根強く、総じて厳しい状況に変化はないものと予想しています。

このような状況のもと、当社グループは、更なる収益性の確保に向けて、経営資源を「ギャツビー」、「ルシードエル」ブランドに集中し、生活者ウオントに対応した新商品により売上達成を目指してまいります。国内については、「ギャツビー」ブランドのパワー・アップによる再成長と、原価低減の継続により更に強固な収益構造を目指してまいります。また、海外事業については、積極的なマーケティング活動を継続し、現地通貨ベースで二桁以上の増収を目指してまいります。インドネシアにおいては、生産設備の充実化により、継続してコスト削減に注力し収益力強化を図ります。

また、来期より重要性の増したMandom Korea Corporation(韓国)を連結対象子会社に、Sunwa Marketing Co., Ltd(香港)を持分法適用会社に追加いたします。

以上により、第88期の連結売上高は464億円、営業利益69.5億円、経常利益67億円、当期純利益36億円を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役 社長執行役員 西村元延

社長インタビュー

Q1 SCM(サプライチェーンマネジメント)の取組みについてお聞かせください。

これまで当社グループでは、物流業務を自社物流センターで行っていましたが、2004年10月より原材料の調達(調達物流)、工場から製品の国内外への配送(販売物流、海外物流)、返品商品の処理(リサイクル物流)まで一貫した物流システムである3PL(サードパーティーロジスティクス)業務を、日本通運株式会社に委託することによって、一元管理してまいります。これだけの総合物流を、3PL化することは化粧品業界では初のビジネスモデルとなります。

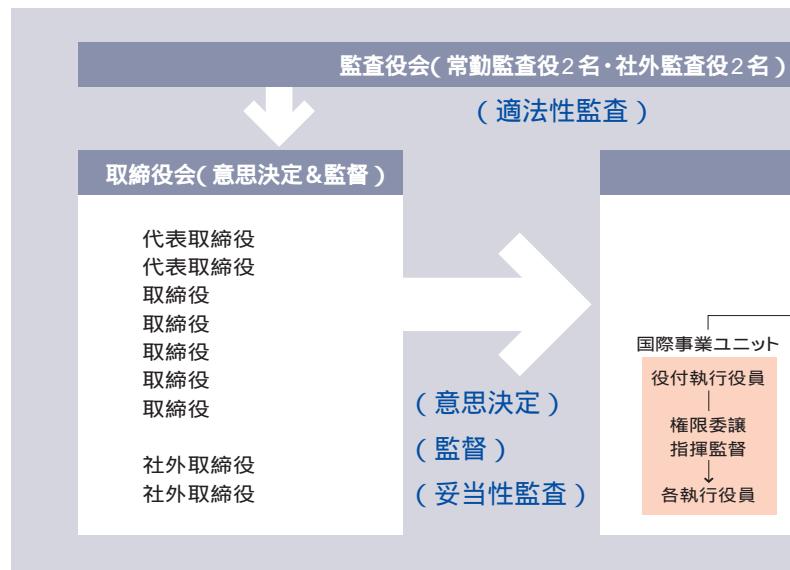
更なるサプライチェーンマネジメントの強化によって、在庫回転率の最大化によるキャッシュ・フローの改善、生産ラインの再整備による製造コスト削減による競争力・対応力の強化を図り、収益性の向上と経営の効率化を目指してまいります。

Q2 女性化粧品の状況についてお聞かせください。

女性化粧品分野は、おのこの化粧品の適正流通によってグループ会社に配置されていますが、市場競争も激しく第7次中期経営計画のスタート時より縮小化しております。しかし、今後の成長を図る上で女性化粧品の拡大は重要であると認識し、現在グループ会社個々の単位ではなく、マンダム全社の事業としての視野で抜本的な改革を進めています。

Q3 コーポレート・ガバナンス体制についてお聞かせください。

コーポレート・ガバナンス体制の充実のために、役付取締役制度を実質的に廃止し、取締役会において各取締役が対等な立場で公正な意思決定・監督を行える環境を整備するとともに、役付執行役員制度を導入し、業務執行責任を明確化します。また、取締役と執行役員との兼任関係を制限し、執行役員への権限委譲を促進することにより、「意思決定・監督機能」と「業務執行機能」とを分離するとともに、業務執行の機動性を確保します。更に、社外取締役の員数を増員(取締役総数11名中1名 9名中2名)することにより、客観的株主視点からの監督機能を強化します。



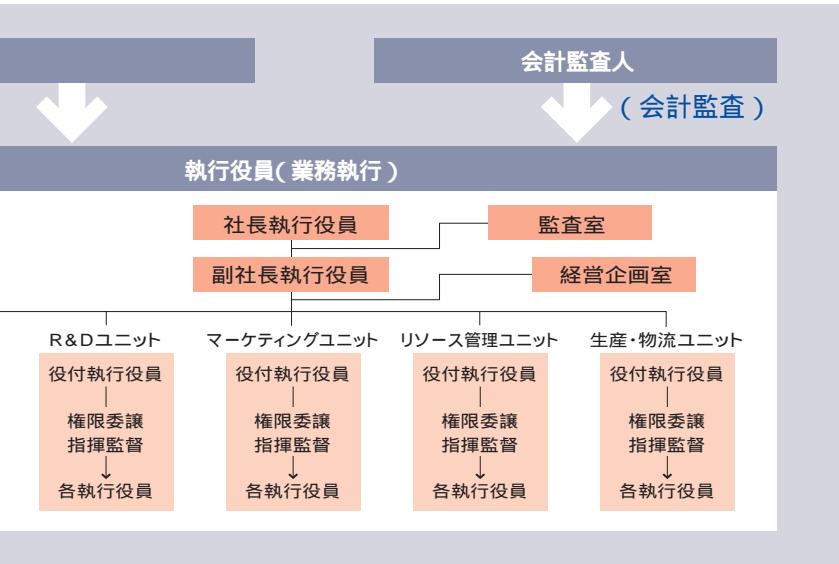


Q4 海外事業の状況についてお聞かせください。

当社グループでは、アジア地域を重要な生産拠点であると同時に重要な市場ととらえ、積極的なマーケティング活動を展開してまいりました。当期についても順調に業績を伸ばし、連結売上高に占める海外比率も21.3%と更にプレゼンスを高めました。また当期には、上海駐在員事務所を開設して、すでにテストマーケティングを稼動しており、今後ともアジア地域を重要な市場ととらえ、積極的に展開してまいります。

Q5 当期伸長している商品についてお聞かせください。

当社グループは、「生活者発、生活者着」の理念のもと、生活者ウォンツを的確にとらえる体制ができており、様々な商品を展開しております。当期はワックスとフェイシャルシートが順調に推移し、それぞれ前年より4.8%増加、9.1%増加しております。また、ヘアカラー市場が9%縮小した中で、「ギャツビー」ヘアカラーの充実、「ルシード」の白髪染め、「ルシード エル」のヘアカラーリニューアルが功を奏し、101.5%の伸長を果たしました。今後とも、店頭起点のマーケティング展開を通して、生活者ウォンツに対応した商品を提供してまいります。



TOPICS

ヘアカラーカテゴリーの充実強化

平成13年2月に発売した男性用「ギャツビー」ヘアカラーシリーズ、また、女性用として平成15年2月に発売した「ルシード エル」と黒髪用ヘアカラーの強化を進めてきました。平成15年のヘアカラー市場動向としてはシュリンク傾向にありましたが、当社では4月から3月の累計で「ギャツビー」17.0%、「ルシード エル」7.4%、合計で24.3%のシェアを獲得しています(マダム算出データによる)。また、平成15年8月には、「ルシード」ブランドから初めての男性の白髪用ヘアカラー、平成16年2月には「ギャツビー」からトリートメントタイプの「ヘアカラー」も発売し、ヘアカラーカテゴリーの強化を一層推進してまいります。



福崎工場でゼロエミッション(廃棄物1%未満)達成

当社は、福崎工場(物流センターを含む)においてゼロエミッションを達成しました。福崎工場では、平成12年11月17日の「ISO14001」の認証取得を契機に、単純焼却・埋め立て処分廃棄物の再資源化を進めてまいりました結果、平成15年10月以降について、再資源化率99%以上(埋め立て処分廃棄物1%未満)達成し維持しております。今後、発生元での排出抑制に努力するとともに、再資源化率99%以上を維持するために、新分類の廃棄物に対応したリサイクルルートの確保と、再資源化の質の向上を目指してまいります。

OHSAS18001労働安全衛生マネジメントシステム規格を認証取得

当社では「品質・環境・安全衛生重視の経営」を強化しています。その一環として平成15年11月28日に「OHSAS18001」を認証取得しました。「OHSAS18001」は組織の労働安全衛生方針を明らかにすることにより、「定められた評価システム」によるPDCA管理を実施することで、労働上の事故や災害、健康被害の危険を未然に防止することを目指したシステムです。今後は「ISO9001」「ISO14001」と合わせ3つのシステムの相乗効果を図り、商品を通じて顧客満足、環境負荷軽減・環境保全活動を通じて社会的満足を、そして安全で衛生的な職場環境づくりにより従業員満足を向上させ、生活者・社会・従業員に配慮した企業経営を更に推進してまいります。



中国上海に駐在員事務所を開設

平成16年1月5日より中国上海にマンダム駐在員事務所を開設。高いマーケットポテンシャルを持っているアジア地域での事業強化は、当社の成長と規模拡大を図るための中長期経営戦略の中核であり、その一環として今回上海に駐在員事務所を開設しました。



韓国イベント

海外における活発なGATSBY展開

当社では、グループ経営を推進し、各国で認知度向上に向けた宣伝広告活動を行っています。インドネシアでは、独占TV番組(ワックス導入)・雑誌広告などの大量投下やディスコイベント、タイでは、デオドラントをメインに「GATSBY BE COOL」という大イベント、シンガポールではワックス&ヘアカラーをメインに「VERY GATSBY」ディスコイベントを開催。韓国では、ワックスをメインに「GATSBY HAIR STYLE CHALLENGE」イベントを開催しました。

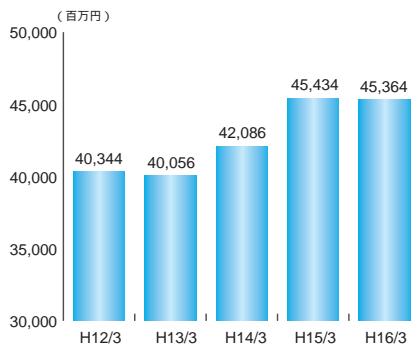
社内エステティックスクール開校

国内の女性コスメティック事業を強化・拡大していくための施策の一つとして人材育成を行っています。社内エステティックスクールの目的は、『企画・開発から教育・販売そして施術サービスまで』すべてエステティシャンが関わる体制を整備することにあります。第一期には、16名が社内スクールを受講し、日本エステティック協会認定フェイシャルエステティシャンならびに同認定エステティシャンの認定資格を取得しました。今後は関連部門とのコミュニケーションの強化、担当業務の質の向上により、「マンダムらしい女性コスメティックの事業モデルの構築」を図っていきます。



財務ハイライト [連結]

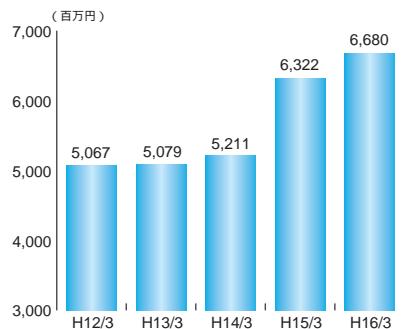
売上高



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	13.5	0.7	5.1	8.0	0.2

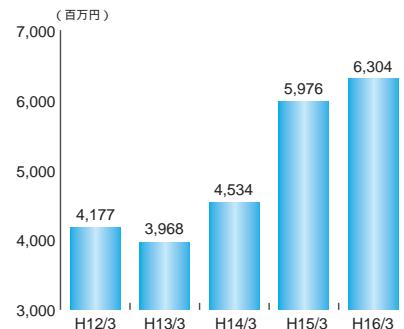
営業利益



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	13.6	0.2	2.6	21.3	5.7

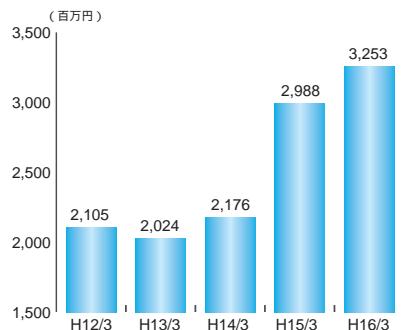
経常利益



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	28.0	5.0	14.3	31.8	5.5

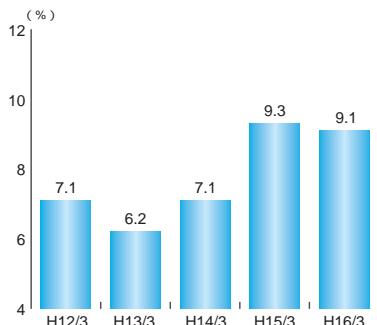
当期純利益



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	33.0	3.8	7.5	37.3	8.9

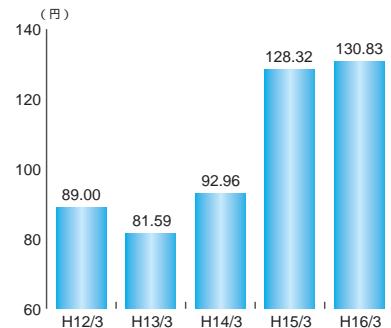
株主資本当期純利益率(ROE)



(ポイント)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
前年比	1.2	0.9	0.9	2.2	0.2

1株当たり当期純利益(EPS)



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	28.7	8.3	13.9	38.0	2.0

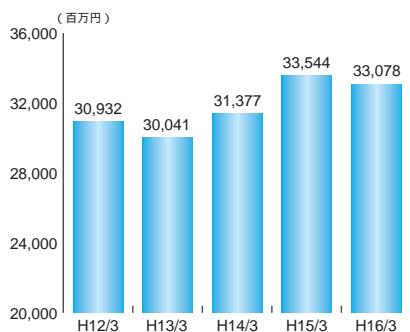
(注) ROE=当期純利益(期首資本の部合計(新株式払込金を除く)+期末資本の部合計(新株式払込金を除く))÷

EPS=(当期純利益-利益処分による役員賞与金)÷期中平均株式数

EPSは前期より上記により算定しております。

財務ハイライト【単体】

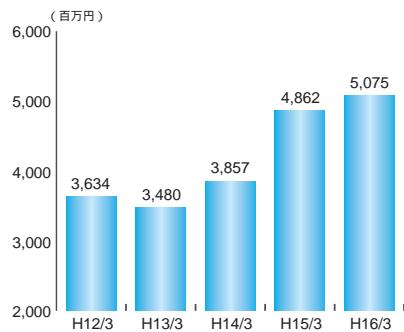
売上高



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	12.0	2.9	4.4	6.9	1.4

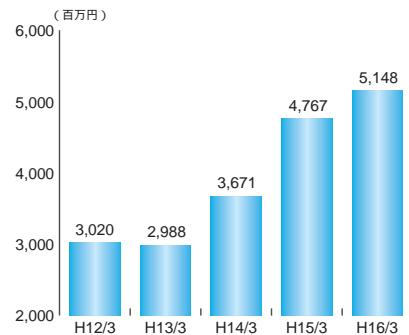
営業利益



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	8.9	4.2	10.8	26.0	4.4

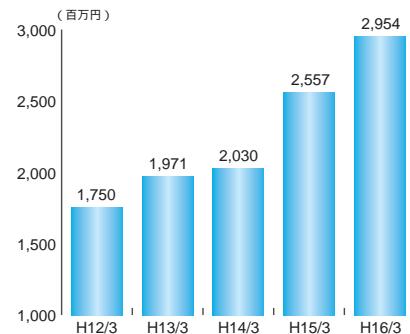
経常利益



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	11.8	1.1	22.9	29.9	8.0

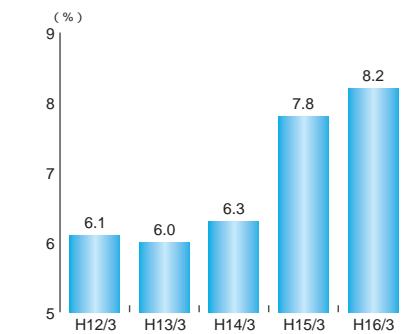
当期純利益



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	24.7	12.6	3.0	25.9	15.5

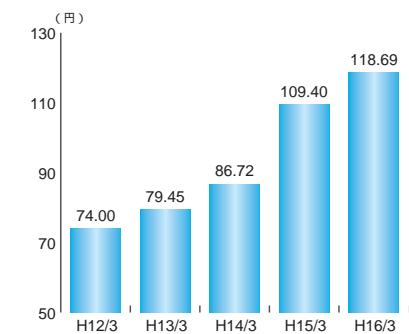
株主資本当期純利益(ROE)



(ポイント)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
前年比	0.7	0.1	0.3	1.5	0.4

1株当たり当期純利益(EPS)



(%)

	H12/3	H13/3	H14/3	H15/3	H16/3
増減率	20.6	7.4	9.2	26.2	8.5

(注) ROE=当期純利益(期首資本の部合計(新株式払込金を除く))+期末資本の部合計(新株式払込金を除く) ÷ 2

EPS=(当期純利益-利益処分による役員賞与金) ÷ 期中平均株式数

EPSは前期より上記により算定しております。

財務諸表 連結]

貸借対照表(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
資産の部			
流動資産		24,811	22,442
1 現金及び預金		5,635	5,540
受取手形及び売掛金		5,773	5,479
1 有価証券		7,383	5,199
たな卸資産		4,870	5,047
2 繰延税金資産		481	500
その他		721	744
貸倒引当金		54	68
3 固定資産		20,663	21,425
有形固定資産		12,757	13,345
建物及び構築物		7,982	8,523
機械装置及び運搬具		2,589	2,494
土地		1,552	1,567
その他		634	761
無形固定資産		547	496
2 投資その他の資産		7,357	7,583
資産合計		45,474	43,868

科目	期別	当期	前期
		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
負債の部			
流動負債		5,437	5,966
支払手形及び買掛金		1,310	1,070
その他		4,127	4,895
固定負債		1,649	1,574
繰延税金負債		4	19
退職給付引当金		446	376
その他		1,199	1,178
負債合計		7,087	7,540
少数株主持分		1,699	1,613

資本の部			
資本金		11,394	11,394
資本剰余金		11,235	11,235
利益剰余金		16,450	14,619
その他有価証券評価差額金		373	20
為替換算調整勘定		2,745	2,495
自己株式		21	19
資本合計		36,687	34,714
負債、少数株主持分及び資本合計		45,474	43,868

- POINT1 期間利益の留保により手元流動性は増加しました。
- POINT2 国内株式市場の回復による、その他有価証券評価差額金の増加等により、長短の繰延税金資産は減少しました。

- POINT3 当期中の設備投資およびシステム開発が減価償却費の範囲内にとどまったことにより、固定資産全体としては減少しました。
- POINT4 当期中における利益処分配当金の実施により減少しましたが、当期純利益が大幅に増加したことによるものです。

損益計算書(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
5 売上高		45,364	45,434
6 売上原価		18,725	18,844
売上総利益		26,638	26,590
販売費及び一般管理費		19,958	20,267
7 営業利益		6,680	6,322
営業外収益		530	550
営業外費用		907	896
経常利益		6,304	5,976
特別利益		70	774
8 特別損失		94	1,014
税金等調整前当期純利益		6,279	5,736
法人税、住民税及び事業税		2,746	2,725
法人税等調整額		44	280
少数株主利益		324	303
当期純利益		3,253	2,988

剰余金計算書(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高		11,235	9,595
資本剰余金増加高		-	1,640
増資による新株の発行		-	1,640
資本剰余金期末残高		11,235	11,235
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高		14,619	12,608
利益剰余金増加高		3,253	2,988
当期純利益		3,253	2,988
利益剰余金減少高		1,422	976
配当金		1,326	899
役員賞与		95	77
自己株式処分差損		0	-
利益剰余金期末残高		16,450	14,619

•POINT5 海外事業については、ブランドの認知・浸透により、「キャッピー」がインドネシアをはじめとする各国で売上規模を拡大しましたが、国内における男性用ヘアカラー剤が市場規模縮小もあって苦戦し、国内事業については低迷しました。

•POINT6 海外への生産移管の進展等により、原価低減基調を継続させる一方、インドネシアでは為替の安定による原材料比率の低下と、省力化の進展・増産による数量効果により原価率が低下しました。

•POINT7 原価低減・販売費及び一般管理費の減少により7期連続で最高益を達成しました。

•POINT8 前期において計上された土地評価損が当期においては発生しなかったことによるものです。

キャッシュフロー計算書(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュフロー		4,396	5,466
投資活動によるキャッシュフロー		1,810	3,194
財務活動によるキャッシュフロー		1,456	1,845
現金及び現金同等物に係る換算差額		21	14
現金及び現金同等物の増加額		1,107	4,103
現金及び現金同等物の期首残高		8,659	4,555
現金及び現金同等物の期末残高		9,767	8,659

財務諸表 単体]

貸借対照表(単位:百万円)

科目	期別	当期	前期
		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
資産の部			
流動資産		19,813	17,440
現金及び預金		5,092	5,127
受取手形		21	16
売掛金		4,396	3,986
1 有価証券		7,383	5,199
たな卸資産		2,128	2,141
繰延税金資産		371	365
その他		463	645
貸倒引当金		43	42
固定資産		23,050	23,773
有形固定資産		10,286	10,849
建物		6,713	7,146
機械装置		1,389	1,421
土地		1,427	1,427
その他		754	854
無形固定資産		481	481
投資その他の資産		12,281	12,442
資産合計		42,863	41,213

科目	期別	当期	前期
		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
負債の部			
流動負債		4,428	4,733
支払手形		371	320
買掛金		818	545
2 その他の他		3,238	3,867
固定負債		1,243	1,215
退職給付引当金		247	235
役員退職慰労引当金		595	680
その他の他		401	299
負債合計		5,671	5,948
資本の部			
資本金		11,394	11,394
資本剰余金		11,235	11,235
利益剰余金		14,211	12,675
その他の他		371	20
自己株式		21	19
資本合計		37,191	35,264
負債及び資本合計		42,863	41,213

・POINT1 期間利益の留保により手元流動性は増加しました。

・POINT2 営業費用抑制による未払金の減少によるものです。

損益計算書(単位:百万円)

科目	期別	
	当期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	33,078	33,544
売上原価	13,567	13,857
売上総利益	19,511	19,686
販売費及び一般管理費	14,435	14,823
営業利益	5,075	4,862
営業外収益	728	741
3 営業外費用	655	835
経常利益	5,148	4,767
特別利益	53	250
特別損失	86	541
税引前当期純利益	5,115	4,476
法人税、住民税及び事業税	2,123	2,171
法人税等調整額	37	253
当期純利益	2,954	2,557
前期繰越利益	605	453
中間配当額	603	449
自己株式処分差損	0	-
当期末処分利益	2,957	2,561

•POINT3

たな卸資産廃棄損及び貸倒引当金繰入額の減少によるものです。

利益処分計算書(単位:百万円)

科目	期別	
	当期 平成16年3月31日	前期 平成15年3月31日
当期末処分利益	2,957	2,561
固定資産圧縮記帳積立金取崩額	1	0
合計	2,958	2,561
これを次のとおり処分します。		
4 利益配当金	603	723
(1株につき25円)	(1株につき30円)	
役員賞与金	90	91
(うち監査役賞与金)	(5)	(6)
別途積立金	1,600	1,140
次期繰越利益	664	605

•POINT4

前期末においては、記念配当を実施いたしましたが、当期は普通配当に切り替えました。年間配当金としては年間50円で、前期と同水準です。

国内グループ会社

国内グループ会社においてはさまざまな女性化粧品を取り扱っています。これらの商品はそれぞれの特性に応じた流通経路で生活者の皆さまにお届けしています。



ピアセラボ



ミック



エムザ



ギノー

国内グループ会社

社名	資本金または出資金	主な事業内容	議決権比率
株式会社ピアセラボ	200 百万円	美容院・エステティックサロンの業務用およびホームケア製品の販売	100%
株式会社ミック	300 百万円	ヨーロッパの高級スキンケア製品を中心にカウンセリング販売	100%
株式会社エムザ	450 百万円	メイクアップ化粧品を中心にバラエティショップなどで販売	100%
株式会社ギノージャパン	100 百万円	フランスのエステティックブランド「ギノー」の販売	100%
株式会社ビューコス	100 百万円	グループ会社・OEM など化粧品を中心に製造・輸入・販売	100%
株式会社マンダムビジネスサービス	10 百万円	保険代理業およびマンダム本社ビル管理業務	100%

連結対象外です。

海外グループ会社および生産拠点

マンダムは1958年業界初の海外進出を果たしました。現在ではインドネシアをはじめとしたアジア全域にグループ会社を展開し、海外ネットワークを広げています。また、日本・インドネシア・中国の3地域に生産拠点を展開し、アジア全域を市場としてとらえた生産体制を構築しています。



日本(兵庫県・福崎工場)



中国(広東省・中山工場)



インドネシア
(ジャカルタ・スター工場)



インドネシア
(パカシ・チビトン工場)

海外グループ会社

(2004年4月1日現在)

所在地	社名	資本金	主な事業内容	議決権比率
韓国	Mandom Korea Corporation	25億ウォン	韓国における化粧品の販売	60.0%
台湾	Mandom Taiwan Corporation	5,000万台湾ドル	台湾における化粧品の販売	100.0%
中国(中山)	Zhongshan City Rida Fine Chemical Co., Ltd.	6億U.S.ドル	マンダムグループ各社の化粧品の製造を担う拠点のひとつ	55.4%
中国(香港)	Sunwa Marketing Co., Ltd.	1,200万香港ドル	中国における化粧品の販売	39.0%
フィリピン	Mandom Philippines Corporation	3,000万フィリピンペソ	フィリピンにおける化粧品の販売	100.0%
タイ	Mandom Corporation (Thailand) Ltd.	5,000万バーツ	タイにおける化粧品の販売	35.0%
マレーシア	Mandom (Malaysia) Sdn. Bhd.	1,000万リンギット	マレーシアにおける化粧品の販売	97.2%
シンガポール	Mandom Corporation (Singapore) Pte Ltd	60万シンガポールドル	シンガポールにおける化粧品の販売	100.0%
インドネシア	PT Mandom Indonesia Tbk	780億ルピア	インドネシアにおける化粧品の製造販売 マンダムグループ各社の化粧品の製造を担う拠点のひとつであり、ジャカルタの2つの工場(スター工場、チビトン工場)で、容器の製造から一貫して生産	60.1%

2004年4月1日より、Mandom Korea Corporation(韓国)を連結対象子会社に、Sunwa Marketing Co., Ltd.(香港)を持分法適用会社に変更しております。連結対象外です。

株式の状況

株主メモ

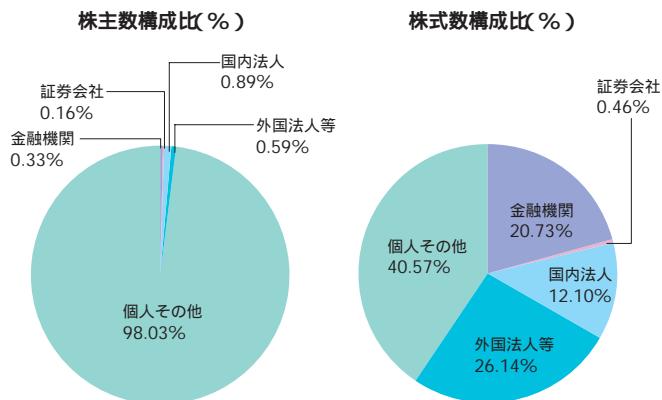
決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
権利確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
1単元の株式の数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	東京都府中市日鋼町1番10号 〒183-8701 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	住所変更等用紙のご請求 ☎ 0120-175-417 その他のご照会 ☎ 0120-176-417
同取次所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞に掲載いたします。ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.mandom.co.jp において提供しております。
株主優待	毎年3月31日現在の100株以上ご所有の株主に対し、5,000円相当の当社製品を6月初旬に贈呈します。

株式の状況(平成16年3月31日現在)

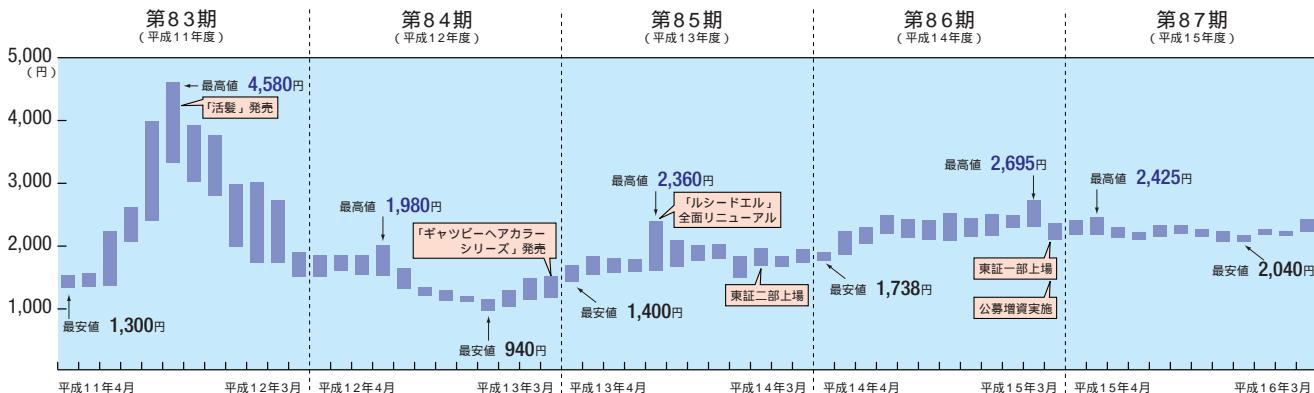
発行済株式の総数 24,134,606株

株主数 16,091名

株式分布状況



株価推移



会社概要

会社概要(平成16年3月31日現在)

社名	株式会社 マンダム
本社	大阪市中央区十二軒町5番12号
設立	昭和2年12月23日
資本金	11,394,817,459円
従業員数	437名
事業内容	化粧品、香水の製造および販売 医薬部外品の製造および販売
HPアドレス	http://www.mandom.co.jp

役員(平成16年6月24日現在)

代表取締役 社長執行役員	西村 元 延
代表取締役 副社長執行役員	亀井 浩
取締役 常務執行役員	西海 義勝
取締役 常務執行役員	佐治 健二
取締役 常務執行役員	山田 憲治
取締役 常務執行役員	野崎 浩治
取締役 常務執行役員	桃田 雅好
取締役	鈴木 政志*
取締役	後藤 光男*
常勤監査役	樋口 俊人
常勤監査役	松山 金豊
監査役	小寺 一矢**
監査役	高木 進**

*社外取締役です。 **社外監査役です。

大株主(平成16年3月31日現在)

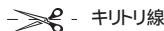
氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 比率(%)
財団法人 西村留學生奨学財団	1,800	7.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,211	5.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,206	5.00
西村元延	1,004	4.16
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデツク アカウト	905	3.75
西村輝久	811	3.36
マンダム従業員持株会	654	2.71
リンクス	512	2.12
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505041	495	2.05
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン エス エル オムニバス アカウト	454	1.88

(注)所有株式数の比率は発行済株式の総数をもとに算出しております。

株主の皆さまへ アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまの声を経営に反映させるべく、アンケートを実施させていただいております。お手数ではございますが、アンケートの質問事項をお読みいただき、回答をご記入の上、ご投函ください。皆さまのご協力をお願い申し上げます。

なお、個別のご質問にはご対応いたしかねますのでご了承願います。



株主の皆さまへ アンケートのお願い

- 株式を購入される際の情報を重視されますか。(複数回答可)
1)証券会社 2)一般新聞・雑誌 3)株式専門新聞・雑誌 4)マンダムのホームページ 5)その他()
- 当社株式を購入された理由についてお聞かせください。(複数回答可)
1)安定性 2)株価の割安感 3)成長性 4)親しみやすさ 5)証券会社の勧め 6)配当 7)株主優待 8)1単元が100株で投資しやすい
- 当社株式をどのくらい保有されているかお聞かせください。
1)半年未満 2)半年以上1年未満 3)1年以上3年未満 4)3年以上5年未満 5)5年以上
- 当社IR情報内容としてくわしく知りたい項目をお聞かせください。
1)経営方針・理念 2)中長期経営戦略 3)事業内容 4)業績見通し 5)商品情報 6)海外展開 7)社会貢献活動 8)環境の取組み 9)その他()
- 株主として当社への評価と理由をお聞かせください。
1)満足 2)やや満足 3)どちらでもない 4)やや不満 5)不満

理由

()

- 当社に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

()

都道府県

性別 職業

年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

ご協力ありがとうございます。



お問い合わせ先
株式会社マダム 広報IR室
〒540-8530 大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号
TEL: 06-6767-5020 FAX: 06-6767-5043



料金受取人払



差出有効期限
平成18年5月
31日まで

郵便はがき



156

大阪市中央区十二軒町5-12

株式会社マダム
広報IR室 宛



5 4 0 8 7 9 0 1 5 6

5

アニュアル・レポート2003、事業報告書、中間決算短信などの資料は、ホームページにも掲載されております。



この冊子は環境にやさしい大豆インキを使用しています

古紙配合率100%再生紙を使用しています